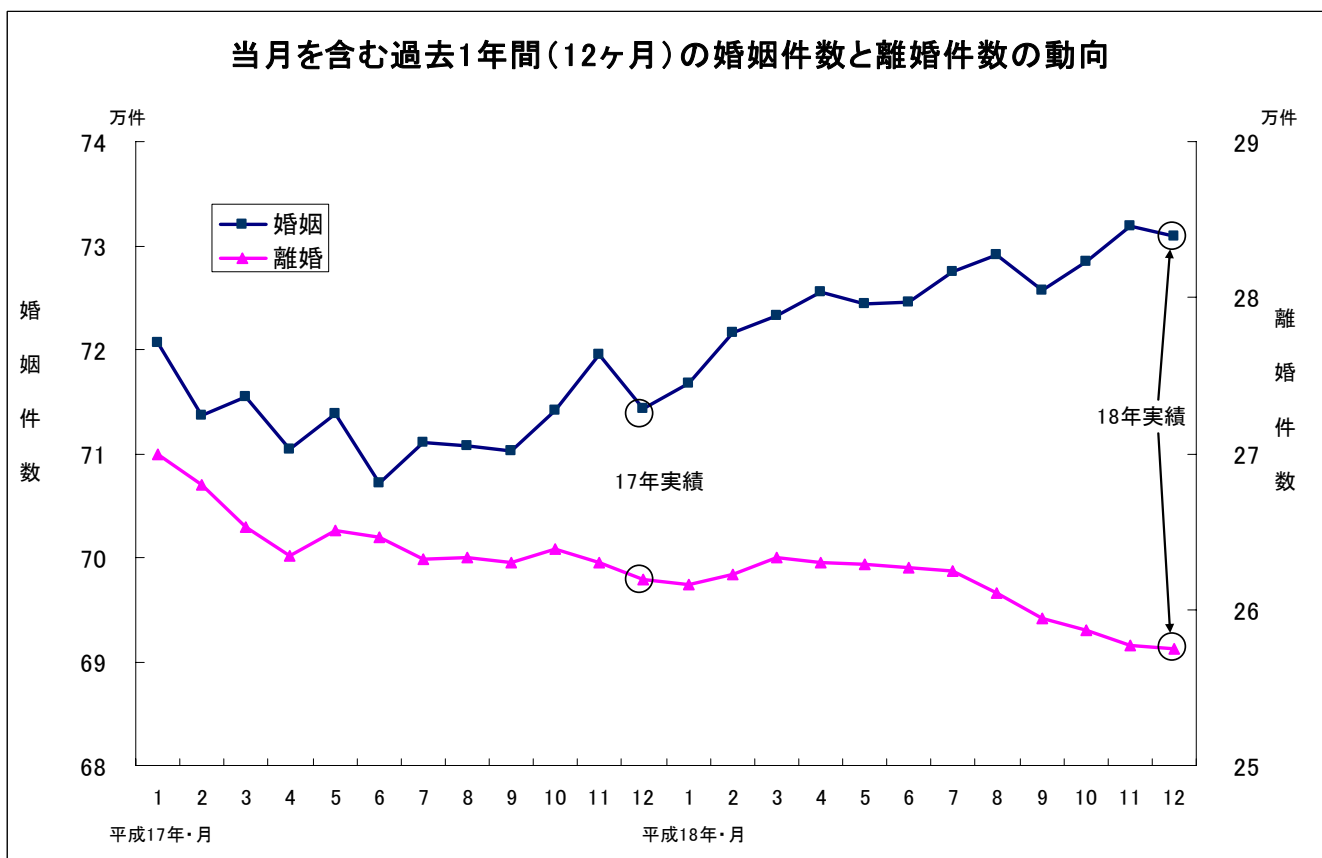
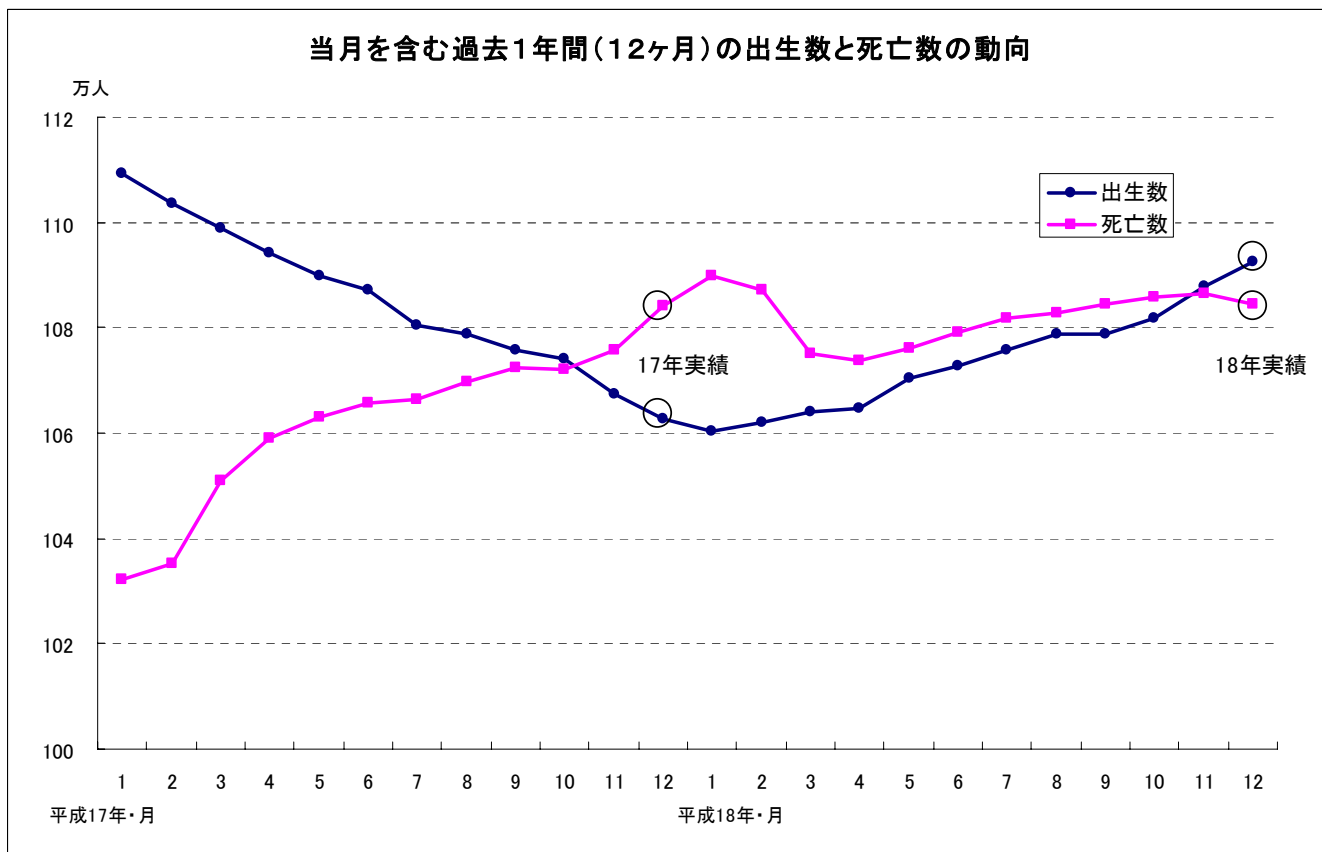
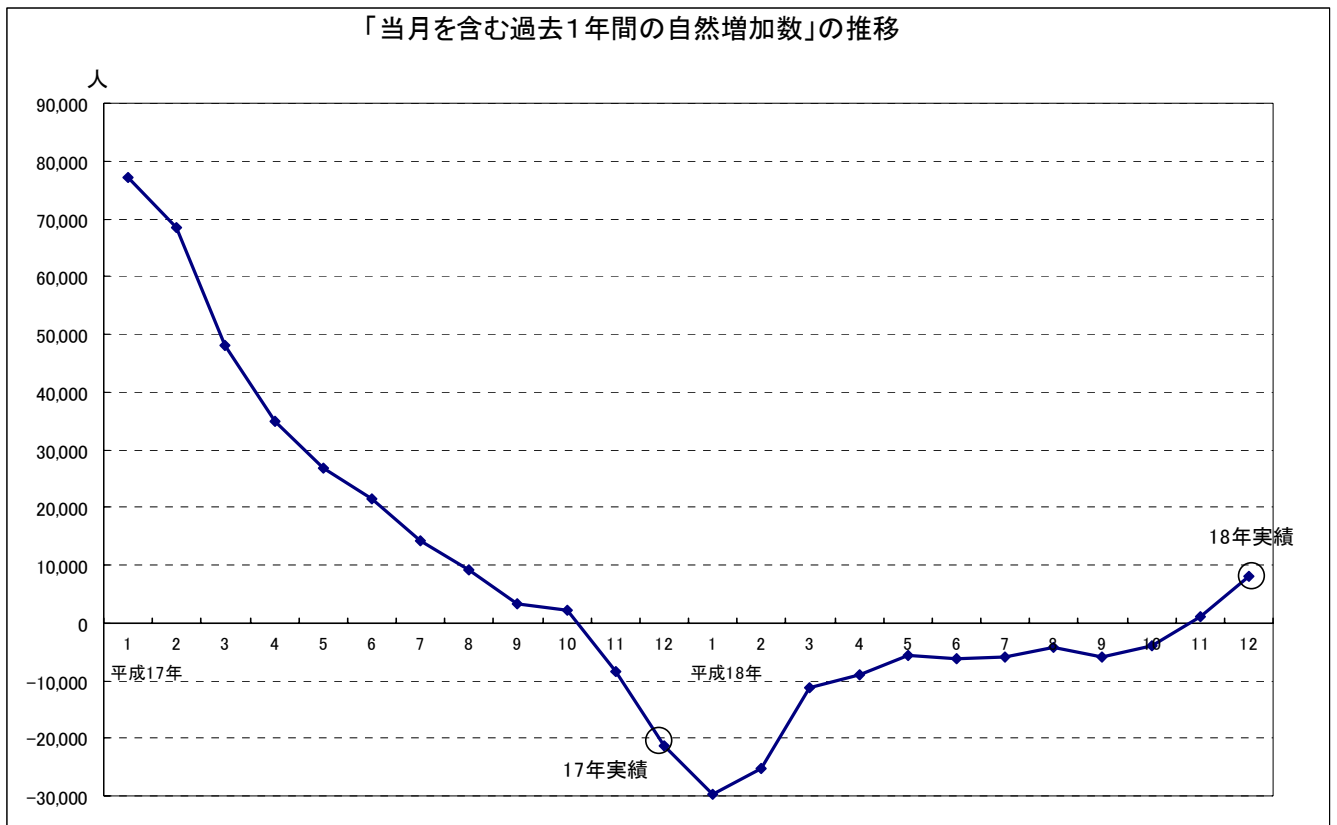


人口動態統計月報（概数）における、出生数・死亡数・婚姻件数
離婚件数・自然増加数の当月を含む過去1年間（12ヶ月）の動向





「当月を含む過去一年間（12ヶ月）の統計」のグラフの見方

1. グラフの各月の値は「当月を含む過去一年間（12ヶ月）の統計」であり、冬は死亡が多い等の季節変動の影響が除かれている。
2. グラフ上、当月の値が前月の値より上昇、低下していることは、当月分（1ヶ月分）が前年同月分（1ヶ月分）より増加、減少していることを示し、上昇幅、低下幅は、前年同月分との差である。
3. 平成17年12月の値（平成17年実績）から平成18年1月の値、2月の値、・・・とみていくと、平成18年12月の値（平成18年実績）までの動向がわかる。
4. 「当月を含む過去一年間の自然増加数」は、「当月の翌月1日現在の人口」と「一年前の同日現在の人口」の差のうちの自然増加数をあらわす。人口の差には、自然増加数以外に社会移動（国内外の移動）がある。

(例)

「平成18年10月1日現在人口」と「平成17年10月1日現在人口」の差は、

- ① 「平成17年10月分から平成18年9月分までの出生数」と「同じ期間の死亡数」の差
（＝平成18年9月を含む過去一年間の自然増加数）
- ② 「同じ期間の入国数」と「同じ期間の出国数」の差（＝社会移動）
を合わせたものである。

期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率の関係

①期間合計特殊出生率の年次推移(年齢階級別内訳)

母の年齢	昭和51年 (1976)	56年 (1981)	61年 (1986)	平成3年 (1991)	8年 (1996)	13年 (2001)	平成18年 (2006)
		1.85	1.74	1.72	1.53	1.43	1.33
15～19歳	0.0186	0.0196	0.0196	0.0188	0.0188	0.0289	0.0250
20～24	0.4825	0.3697	0.3016	0.2244	0.1988	0.1980	0.1871
25～29	0.9266	0.9074	0.8557	0.6956	0.5631	0.4782	0.4352
30～34	0.3446	0.3669	0.4473	0.4722	0.4895	0.4425	0.4516
35～39	0.0694	0.0693	0.0891	0.1115	0.1395	0.1659	0.1886
40～44	0.0097	0.0082	0.0094	0.0118	0.0155	0.0199	0.0286
45～49	0.0004	0.0003	0.0003	0.0003	0.0004	0.0005	0.0007

②各世代別(コーホート)にみた出生率の年次推移(ごく粗い計算)

(①表では、各世代は5年経過するごとに5歳分年齢が上昇しているのので、各世代別(コーホート)にみた出生率の年次推移(ごく粗い計算)として整理)

世代(生まれ)	昭和51年 (1976)	56年 (1981)	61年 (1986)	平成3年 (1991)	8年 (1996)	13年 (2001)	平成18年 (2006)	コーホート 合計特殊 出生率
		1.85	1.74	1.72	1.53	1.43	1.33	
昭和62年～平成3年							0.0250	0.02
昭和57年～61年						0.0289	0.1871	0.22
52～56					0.0188	0.1980	0.4352	0.65
47～51				0.0188	0.1988	0.4782	0.4516	1.15
42～46			<u>コーホート</u>	0.0196	0.2244	0.5631	0.4425	1.44
37～41		0.0196	0.3016	0.6956	0.4895	0.1659	0.0286	1.70
32～36	0.0186	0.3697	0.8557	0.4722	0.1395	0.0199	0.0007	1.88

期間

③コーホート合計特殊出生率(母の到達年齢別)(ごく粗い計算)

(②表の各世代の到達年齢までの出生率の累計)

世代(生まれ)	15～19歳	15～24歳	15～29歳	15～34歳	15～39歳	15～44歳	15～49歳
昭和62年～平成3年	0.02						
昭和57年～61年	0.03	0.22					
52～56	0.02	0.22	0.65				
47～51	0.02	0.22	0.70	1.15			
42～46	0.02	0.24	0.81	1.25	1.44		
37～41	0.02	0.32	1.02	1.51	1.67	1.70	
32～36	0.02	0.39	1.24	1.72	1.86	1.88	1.88

ICD-10 (2003年版) 準拠の適用について

疾病及び関連保健問題の国際統計分類について、わが国では、これまで第10回修正を使用してきましたが、医学の進歩等に対応するため一部改正が行われ2003年までの改正が蓄積されたICD-10(第2版)が2004年10月にWHOより勧告されました。わが国においてもWHOの最新の勧告の国内への適用(ICD-10(2003年版)準拠)について、平成17年1月の厚生労働大臣の諮問に対し、平成17年7月に社会保障審議会(統計分科会)から答申がなされ、平成17年10月の総務省告示第1147号により新たな分類を平成18年1月1日から適用することとされました。

主な改正点

ICD-10(2003年版)準拠の主な改正理由は、WHOの勧告に基づくもの、わが国の法令改正等に基づく名称の変更、医学の進歩等に対応した名称の変更であり、その内容は次のとおりです。

①WHOの勧告に基づくもの

ア 新たな分類項目の設定(特殊目的用コード利用)

- ・重症急性呼吸器症候群(SARS)
- ・抗生物質に耐性の細菌性病原体

イ 項目の移動

- ・胃ポリープ 新生物から消化器系の疾患へ移動
- ・大腸<結腸>のポリープ 新生物から消化器系の疾患へ移動 等

ウ 分類項目の廃止及び新設(特殊目的用コード以外)

廃止 8

新設 13

- ・肝臓提供者<ドナー>、心臓提供者<ドナー> 等

エ 死亡統計における原死因選択ルール等の変更

死亡統計における原死因の選択について、コーディングルールの一部変更が行われ、また適用例が具体的に示される等の変更が行われました。

<原死因とは>

- ・直接に死亡を引き起こした一連の事象の起因となった疾病もしくは損傷
- ・致命傷を負わせた事故もしくは暴力の状況

<分類ルール>

原死因は死亡届に添付される死亡診断書の情報から、ルールに基づき選択、決定される。

②法令の改正等に基づく名称の変更

精神分裂症 → 統合失調症

痴呆 → 認知症

③医学の進歩等に対応した名称の変更

慢性関節リウマチ → 関節リウマチ

妊娠中毒症 → 妊娠高血圧症候群

初婚者数の動向と合計初婚率の動向の関係

- 初婚者数は次の3つの要素から計算されるため、その動向は、「合計初婚率」の動向のほか、「女子人口（16～49歳）」と「（16～49歳女子人口の）年齢構成の違い」の動向にもよる。

$$\text{初婚者数} = \text{女子人口 (16～49歳)} \times \frac{\text{(期間) 合計初婚率}}{34 * } \times \text{(16～49歳女子人口の) 年齢構成の違い}$$

↑
↑
↑

(16～49歳のどの年齢の女子の人数も同じとした場合に見込まれる初婚者数)
(初婚者数÷見込まれる初婚者数)

* (期間) 合計初婚率は16～49歳までの34歳の年齢別初婚者を加えたものであるため、女子人口（16～49歳）を乗じて初婚者数となるよう34で除している。

その年の女子の49歳までの年齢別初婚率の合計である「合計初婚率」は、「その年の女子人口（16～49歳）について、仮にどの年齢の女子の人数も同じとした場合のその年の49歳までの初婚率」である。

	初婚者数 (16～49歳)	=	女子人口 (16～49歳)	×	$\frac{\text{合計初婚率}}{34}$	×	年齢構成の違い (16～49歳)
平成16年	60.3万人	=	2,716万人	×	$\frac{0.733}{34}$	×	1.031
	↓ △1.0%		↓ △1.4%		↓ 2.3%		↓ △1.9%
平成17年	59.7万人	=	2,679万人	×	$\frac{0.749}{34}$	×	1.011

※合計初婚率が変わらなかった場合、初婚者数は△3.3%であったと見込まれる。

「女子人口（16～49歳）」と「年齢構成の違い」の動向

